

読み聞かせのすすめ

「読み聞かせは子どもに良い影響がある」と様々なところで言われています。具体的にどのような良さがあるのでしょうか。

- 想像力を育む
- 心を育てる
- 感情が豊かになる
- 言語能力が高まる
- 集中力が上がる
- 学力向上の力になる
- 読書好きになりやすくなる
- 話上手になる
- 親子の絆を深める

などなど・・・まだまだありそうです。

読み聞かせは、おもに就学前の児童に良いと思われている方も多いかと思いますが、絵本の世界に入り込むことで、出てくる登場人物の気持ちの変化や行動を理解して人の気持ちに寄り添うことができたり、たくさんの言語に触れて自分が言いたいことを相手に伝わりやすく言語化したりすることを考えると、どのような年代の子どもでも読み聞かせは良い影響を与えることが出来そうです。

様々な物語に触れることで、「どういう状況」で「人間がどういう感情を抱くのか」を理解するきっかけになることを考えると、大人にも良いことでしょう。

ぜひ、親子で、家庭で、学校で、公民館で・・・さまざまな環境で、『読み聞かせ』を試みましょう。読み聞かせをしてもらっている人と、読んでもる人両方が心地よい気持ちになることが大切ですね。





Hello! 学校図書館 鶴田小学校

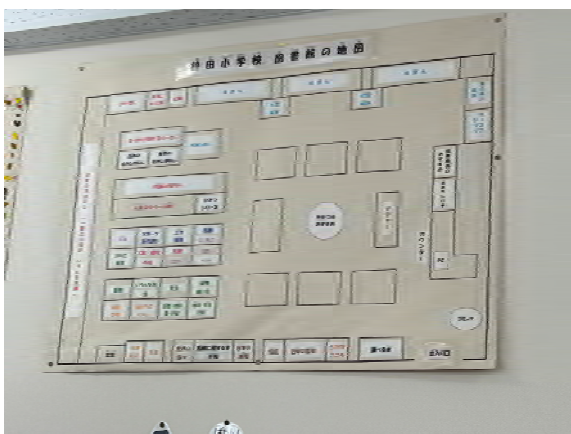
今月は南区の鶴田小学校を紹介します。

12月の寒い日でしたが、校長先生に笑顔で迎えていただきました。図書館は、「わあ!」と、思わず声のでるくらい、明るく温かい感じがする図書館でした。



机がコの字に配置されていました。また、ソファも置いてあり、ゆったりと読書が楽しめる環境作りがされてありました。真ん中にある、「おはなしのプレゼント」のコーナーは面だして本が紹介されているので、子どもたちの目にとまりやすいですね。さらに緑(造花)があると、心が癒されますね。図書館が温かく感じる工夫がたくさんありました。

さまざまなコーナーの工夫



絵本コーナーの下にはマットがあり、ベンチには座布団が敷いてありました。子どもたちがリラックして絵本を読んでいる姿が目につきます。また、国語の教科書に紹介されている本のコーナーがありました。本選びに迷った子たちのお助けになることでしょう。

本の帯を使った1・2月の掲示・展示



新しい年になり、それぞれの学年のしめくくりの学期になりました。国語の教科書の最後にある「この本、よもう」「本の世界を広げよう」のコーナーをぜひ、作ってみましょう！



学校では「卒業」という言葉が様々な所で聞かれるようになってきました。

図書館も「卒業」に向けてのコーナーを作ると良いですね！



2月の人・もの・こと



2.3 節分

もともと「節分」は季節の境目を意味する言葉で、今では特に立春の前日を指すようになりました。煎った大豆には邪気をはらう力があるとされ、年齢の数だけ食べると病気をしないとされています。焼いたイワシの頭と柁を戸口にさす風習もあります。

2.22にゃんにゃんにゃん

2月22日は「にゃん(2)にゃん(2)にゃん(2)」で「猫の日」。気まぐれでミステリアスなイメージの猫たちは、さまざまな物語に登場しますね。猫が好きな人も苦手な人も、お話の中の猫たちを観察してみましよう。

2.23ふろしきの日

風呂敷は日本に古くから伝わる包装用具で、最近は環境を守る視点からも注目されています。そこで風呂敷をPRしようと、「つ(2)つ(2)み(3)」(包み9の語呂合わせ)2月23日を「ふろしきの日」としました。さまざまな場面で使える風呂敷の魅力を見直してみましよう。

やなせたかし(1919.2.6~2013.10.13)

東京生まれ、高知県育ち。漫画家、絵本作家、作詞家・・・などの多様な創作活動を行いました。50歳で発表した「アンパンマン」は多くの人に愛され続け、その登場キャラクター数(1,768体)はギネス世界記録に認定されました。

松谷 みよ子(1926.2.15~2015.2.28)

児童文学者。「オバケちゃん」「ちいさいモモちゃん」シリーズなどの童話や民話の再話絵本などで親しまれています。『ふたりのイーダ』などの戦争を取り上げた作品や『わたしのいもうと』といったいじめの問題を考えさせる絵本などもあります。

ヴィルヘルム・グリム

(1786.2.24~1859.12.16)

ドイツの言語学者で兄ヤーコプと協力してドイツの各地に語り継がれている物語を聞き集め、「グリム童話」を編さん。中でも実際にあった130名の児童行方不明事件を題材にした「ハーメルンの笛吹き男」はよく知られています。

【あとがき】今年うさぎ年ですね。「しろいうさぎとくろいうさぎ」「どんなにきみがすきかあててごらん」「わたしのワンピース」「ピーターラビットのはなし」「いなばのしろうさぎ」「うさぎのくれたバレエシューズ」など、うさぎが登場するお話はたくさんあります。既にコーナーが作ってあるとは思いますが、ぜひ今年うさぎの本をたくさん読んでほしいですね。【足立】



図書館員のひみつの本棚201回

今月は、こどもたちといっしょに楽しんで読める本をご紹介します。

『でんしゃくるかな?』

きくち ちき/[作] 福音館書店 2021年 ¥800(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

各場面が見開の2ページで描かれています。こどもと動物たちが「くるかな?」と電車を待っていると、電車が到着し「きたー!」と全員で大喜び。力強いタッチで描かれた絵はとても愛らしく、こどもたちが期待を込めて待っている様子、電車が来た喜びを全身であらわす様子がいきいきとあらわれていて、大人が見てもなんだか楽しい気持ちになり、微笑んでしまう絵本です。

<子どもに手渡す時のポイント>

0~2才を対象として出版され、色づかいがはっきりとしていて、単純な線で描かれているので赤ちゃんでもわかりやすく、初めて絵本にふれる子どもでも楽しめます。赤ちゃんを膝の上のせて、絵本で描かれている場面に気持ちを合わせて「くるかな?くるかな?」「きたー!」と読んであげると、

きっと、絵本のこどもたちと同じように、喜んでくれると思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801